



大分県議会議員 2024年 夏号
県民クラブ会報「県民ひろば」別府市版

原田たかし 会報



教育・福祉・労働

子どもたちが「生まれてきてよかった」、
高齢者の方々が「長生きしてよかった」と
思える社会を実現するために。

大分県議会議員 原田 孝司

発行責任者：大分県議会・県民クラブ 原田孝司

連絡先：別府市荘園町3組の2 原田たかし事務所 TEL・FAX 0977(25)0011 E-Mail harada@ctb.ne.jp

2024年 大分県議会 第2回定例会

広域交通網整備に向けた副知事人事も

6月13日(木)から28日(金)にかけて大分県議会2024年第2回定例会が開催されました。

今回、1億7,181万4千円の本年度一般会計補正予算案（累計6,899億7,981万4千円）が上程され審議されました。

補正の内容は、国のデジタル田園都市国家構想のモデル案に採用された要介護認定業務のデジタル化に向けた事業費で、大分市・別府市と共同して取り組みます。財源は政府のデジタル田園都市国家構想交付金などが充てられます。

開会日に行われた提案理由説明で佐藤樹一郎知事は、「増加が見込まれる要介護認定事務の迅速化と効率化を図る。地域包括支援センターの介護予防プラン策定にAI（人工知能）を導入し、最適なサービス提供につなげたい。」と述べています。

予算外議案では、毎年5月1日を基準日とする学校基本調査の結果、県立学校及び市町村立学校の児童生徒及び学級数が確定したことによる県立学校職員定数及び県市町村学校県費負担教職員定数条例の改正案などが上程されました。なお、この春に大分市東大道に新設された県立中央支援学校の開校に伴い、県立学校職員定数は94名増えています。

また、人事案件では、国土交通省出身の桑田龍太郎さんが副知事として提案されました。県の副知事は通常2人体制ですが、厚生労働省出身の吉田一生・副知事が3月末で退任したため、この数ヶ月間、県職員出身の尾野賢治・副知事1人となっていました。

桑田副知事は、佐藤知事が大分市長時代に副市長をされていた方で、豊予海峡ルート構想作りに関わっていたそうです。広域交通網や地域公共交通整備などの推進に向けた人事だと言えます。

最終日の採決で全て承認されました。



最低賃金が様々な影響を及ぼします…

日田市に住んでいる知人がハローワークに行ったところ、希望する専門職種では日田市より隣接する福岡県のうきは市（旧浮羽町・吉井町）の方が賃金が高かったため、不思議に思い窓口で尋ねたそうです。係の方から「最低賃金の時間額が大分県は899円なのに対し、福岡県は941円というのが影響しています。」と説明があったそうです。

昨年10月、大分県の最低賃金はこれまでの最大の引き上げ幅となる45円上昇しました。

大分県の最低賃金は福岡県、佐賀県（900円）につく九州3位ですが、福岡県と42円の差があります。同じように福岡県に隣接する中津市などでも、同様の理由で人材が流出しているという話が聞かれます。

今定例会で、県民クラブでは「2024年度大分県最低賃金の改定等に関する意見書（案）」を提出しましたが、賛成少数で否決されました。

人手不足や物価高騰が続く中、地域の人材確保、勤労者の生活、ひいては地域経済を守っていくためにも最低賃金は重要な課題であることに間違いありません。

折り鶴に込めた願い

原田孝司のシンボルマークは平和を象徴する折り鶴です。
背景には、教育・福祉・労働を表現する虹がかかっています。

